

下嘴一部欠損したオシドリの外科用フィルムを用いた処置について

○百武真梨子¹⁾，小野香織¹⁾，田窪憲一郎¹⁾，
宗正敏子¹⁾，尾崎礼子¹⁾，山口進也¹⁾
(¹⁾ 野毛山動物園)

2015年8月21日に野毛山動物園で飼育しているオシドリ(11歳、♂)において下顎に腫瘍がみられた。数回の診察の後、腫瘍全摘出を行うこととなった。術後、下嘴が下嘴骨のみとなってしまい、舌が下嘴骨間に落ち、自力での採食が不能となった。そのため外科用フィルムを用いて下嘴骨間を覆い、舌の下垂を防ぎ、自己採食を可能にした。その経緯と処置について報告する。

初診時、下嘴の腫瘍表面を一部採取し病理検査に出したところ「細菌を伴う漿液細胞性痂皮」と診断された。経過観察を行っていたところ同年9月19日に腫瘍が自壊した。排膿し洗浄の処置を行ったが、1か月で再度腫瘍が大きくなったため同年11月7日に麻酔下にて腫瘍一部の摘出を行った。摘出した腫瘍の病理結果が「扁平上皮癌」であったため、同年11月28日に麻酔下にて腫瘍全摘出。それにより、下嘴がほぼ骨のみとなり、舌が下垂し自力での採食が不能となった。

自己採食を可能とするため、まずハイドロコロイド素材絆創膏(商品名:キズパワーパッドTM)で下嘴骨間を覆うと舌が落ちることなく採食が可能になった。しかし、水等の影響で剥がれやすく、貼り直しのために数日おきの捕獲が必要になり適さなかった。次に、外科用フィルムを用いて下嘴骨間の穴をふさぐと剥がれにくく、フィルムの交換は1か月毎ほどで良くなった。下嘴骨間を外科用フィルムで覆うという簡易的な方法でも、自己採食が可能となり獣舎での飼育が可能となった。また、外科用フィルムでは貼り直しの回数が少なく済み、捕獲ストレスも軽減させることができた。

現在、徐々に下嘴の組織の修復が見られている。そのため、短時間ならフィルムがなくても舌を通常位置で保持でき、さらに下垂しても自力で元の位置に戻せるようになってきた。今後も下嘴骨間が埋まるまでは外科用フィルムを用いて採食機能の補助行いつつ組織修復を期待していきたい。